

広報かわにし

発行所 川西町役場
 発行者 川西町 中村委員 会
 (町長 教白 部 5 円
 編集 所 南風 社
 印刷 所 南風 社
 定価 1部 5円
 人口の動き
 2月1日現在
 男女計 6,977 人
 世帯数 1,413 世帯

三十四年度の決算報告

一戸当たり五万六千円

みんなの金が町づくりに

一月十八日の町議会で昭和三十四年度の決算が認定された。一般特別の両会計を合わせた歳入一億五千八百八十八万四千五百五十八円歳出一億五千四百九十七万七千六百五十九円というばく大なもの。町づくりに、一世帯当たり五万六千七百七十二円、住民ひとり当たり一万五千七百七十円の金が使われたわけである。

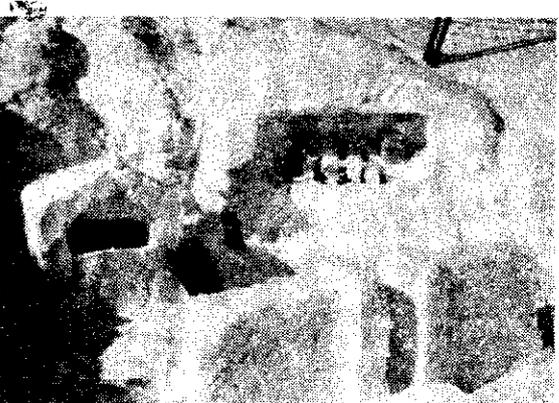
予算は適正に使った

一般会計の決算額(別表)についていえば、町政の運営に必要な金を、予算どおり順調に使ったということになる。当初予算は八千七百七十四万七千八百二十円であったが、その後、三十三年度の決

歳入の部	子算現額	決算額	%
1 歳入合計	102,292,713	102,207,345	100%
2 地方交付税	19,400,000	19,400,000	100.0
3 財産収入	262,490	264,951	100.9
4 分庫金貸付金	3,217,910	2,214,198	68.8
5 使用料収入	331,670	469,440	141.5
6 国庫支出金	3,025,503	2,401,678	79.4
7 県支出金	2,272,150	2,382,480	104.8
8 市町村支出金	1,156,000	1,250,150	107.7
9 雑収入	5,978,200	5,978,225	100.0
10 雑収入	604,250	982,681	162.7
11 雑収入	312,080	316,037	101.3

算剰余金約五百万円をはじめ、交付税の増額や大規模固定資産税の自然増などで財源がふくらみ、一千四百五十四万四千八百九十三円を追加した。この結果各部落の消防施設が充実し、土木や農林関係の災害復旧がなされ、教育費の一部などが増額されたわけ。剰余金二百八十九万七千五百九十七円を

歳出の部	子算現額	決算額	%
1 歳出合計	102,292,713	99,309,748	100%
2 役員報酬	1,549,029	1,549,026	100.0
3 退職金	20,888,330	20,288,759	97.1
4 消防費	5,657,983	5,650,518	99.9
5 土木費	9,763,400	9,762,945	99.9
6 教育費	16,479,490	16,310,374	98.9
7 社会福祉費	4,990,493	4,953,127	99.2
8 保健衛生費	2,260,650	2,193,995	97.0
9 産業経済費	12,577,850	11,749,707	93.4
10 財産費	1,474,490	635,972	43.1
11 統計調査費	335,130	294,303	87.8
12 選挙費	550,000	526,409	95.7
13 公債費	4,053,500	4,052,830	100.0
14 雑支出金	21,668,910	21,351,850	98.5
15 子算現額	43,458		



2月のある日に
 雪のお家ができました。りっぱなご門もできました。
 かわいいこけしが住みました。
 みんな仲良くはおえんで、楽しく明るいくらし…。
 でも、ちょっと悲しいの、春の日さしが早いよ。
 千手中学校で……押木秀治撮影

未収金

国保会計に、保険料相当額の補助金が交付されたことがめだつた。保険料の収納率は九十八パーセント、だから二千万円の未収だった収納率が悪いと補助金も少なくなるとのこと、滞納はやめてほしい

学校建築特別会計(高倉分校)は、国庫補助金約九十万円と町債百七十万円、あとは一般会計の繰り入れ金でまかされた。
 産業育成資金は、国民金融公庫を通じて中小企業者に資金を貸し付け、これにより町の商工業を振興させようというための会計。
 新農山漁村特別会計は、新しい農村を建設しようとして農業センター、有線放送、開田、さく道、共同作業施設などにトンネル式で

このしの会計に繰り越した。押木助役は、「毎年苦しんだ予算内の操作資金が、あの年は民間の好景気でさほどの苦勞もなくムースに行なつたし、まあ、健全財政でした」と語っている。

交付された補助金に、町が若干の助成をして使った額である。特別会計の決算額は次のとおり。
 国民健康保険
 歳入 二五、三七四、一二二円
 歳出 二四、四四六、五六〇円
 差引残高 九二七、五六一元
 千手診療所
 歳入 七、〇五五、七四八円
 歳出 七、〇五五、一七五円

編集のうらばなし

本紙が発行されてから四年、身に余るほどのはげましのことはに思わず赤面したり、攻撃的な投書にクソッと思つたり、みなさんの耳が痛いようなことを書いたりしてどうか月給をもらつている。可もなし不可もなし、という広報よりも、住民のやや過半数をうわ回わる層から支持され、残りの層が批判的である広報こそ、かえって意義があるのではあるまいか。

橋診療所
 歳入 一四、三二〇、八六四円
 歳出 一四、三〇九、六九六円
 差引残高 一、一六八円
 学 校 建 築
 歳入歳出 七、〇五九、一六七円
 産業育成資金
 歳入歳出 一、六三三、八八二円
 新農山漁村
 歳入歳出 一、一六四、四三二円

町づくり

自分のことはタナに上げて、人の書くことには何でもケチをつける人があつた。こういふ人は、「全くそのとおりだ、きみの言うとおりだ」と思えば思うほどケチをつけたくなるらしい。毎月一・二件、必ずこんな投書があることを読者はご存じであろうか。
 本紙が配布されると、目をサラのようにしてまちがいをさがす人もある。当用漢字やかなづかい、文章の一つ一つを古い文法で検討してくれる。活字のちがいが一つでもあつたらぬなら、それはもうオニの首でもとつたようにうれし

に使うことばではない。「わたし」の清い一票で、これから日本の新しい政治が行なわれようとしている。これは神聖な投票所なんだ」という気持ちだが、この人にはわいてこなかったのだらうか。普通の人間であつたなら、「清浄にしてけがれない、いとまご」といふ心境になつたはずである。
 毎号のことだが、作文には神経をすり減らすほど気を使う。それなのに、読む人の不勉強で意味を誤解され、そのたびに攻撃されてきたのではうかがふ瀬がない。できあまらぬままに、建設的なご意見をよせていただきたい。

が。関心をもって読んでくれるのはありがたいことだが、こんな人はじつしまつが悪い。
 つい先日のこと、次のような投書ももらった。「第二十六号の記事中、どうしてつづにおちないところがある。衆院選の総決算に、神聖な投票所」とあるが、投票所には神も仏も関係ないはずだ。なぜ川西の投票所は神聖なのか、次回の広報ではっきりした返答せよ」というのである。

神聖とは、あなたが神や仏だけに使うことばではない。「わたし」の清い一票で、これから日本の新しい政治が行なわれようとしている。これは神聖な投票所なんだ」という気持ちだが、この人にはわいてこなかったのだらうか。普通の人間であつたなら、「清浄にしてけがれない、いとまご」といふ心境になつたはずである。
 毎号のことだが、作文には神経をすり減らすほど気を使う。それなのに、読む人の不勉強で意味を誤解され、そのたびに攻撃されてきたのではうかがふ瀬がない。できあまらぬままに、建設的なご意見をよせていただきたい。

町議会報告 ①

多難な年に有終の美を

初議会に決意を表明

ことしの初議会に当たる第一回臨時会は一月十七、十八日の二日間
にわたって開かれ、総額一億五千万円にのぼる昭和三十四年度の一
般特別会計の決算が認定されたほか、橋小学校建築関係の追加更正算
等五件がそれぞれ議決された。

なお、本会議終了後全員協議会を開いて新年度予算編成方針、機構
改革等について検討した。その結果、早急に機構改革を行なって新し
い機構に合わせて予算編成をすることに決定した。

三十四年度の 決算を認定

第一日は中村町長、小林議長
が出張先からの帰町が間に合わず
小川副議長の司会によって開会さ
れた。三十四年度決算は町長の出
席を待って上程することとなり、
この日はその他の四件(橋小学校
建築関係の起債、ならびに追加更
正予算、町税減免、土木関係の専
決処分報告)を審議した。これら
はいずれも事務的な案件で、その
内容にも実質的な問題となるよう
な点がなかったため、質疑討論も
ほとんどないといったスピード審
議で、それぞれ原案どおり可決あ
るいは承認された。

第二日は帰町した小林議長が
議長席に着き、別項のとおり「内
外多事の本年は議員の任期が満了
する年でもあるので、各自の専断
を十分發揮して有終の美をかざり
次の選挙にバトンを渡したい」と
年頭のあいさつを述べ、続いて中
村町長も「ことしも多難が予想さ
れるので、過去三年間の成績の仕
上げという意味からも腕にヨリを
かけて努力してほしい」とあいさ
つした。

年頭のあいさつ

(小林議長) 私どもはいよいよ

今年をもって任期四年を満了して
次の方々に議事を引きつぐわけで
ある。過去三年間のご協力によっ
て、川西町は清い、平和な発展の
道を歩んで来たのであって、この
点町長さんをはじめ町民からも認め
ていただかれると信じる。

きのうまで各方面をまわって来
た情勢を総合して考えると、こと
しは町の内外に大きい変化が考え
られ、多事多難を思わせるものが
ある。したがって議会の責務も大
きい。残された期間に、過去のり
っぱな成績にキズをつけて九勿の
功を一善にかくことのないよう、
十分実力を發揮して有終の美をか
ざり、心おきなく町政の次の選手
にバトンを渡すことができるよう
ご協力願いたい。

(中村町長) ことしは、あなた
がたのうるわしい成績の仕上げの
年であるが、私にとっては新しい
任期の第一歩の年で、ともにだい
じな年である。

ことしも多難が予想されるが、
皆さんがたもすでに過去三年間の
体験で町の事情にもくわしいので
腕にヨリをかけてりっぱに成績が
上がるように願いたい。私も年頭
の放送において、とくに、本年度
新しい方向に向かう計画について
述べたわけである。きょうは本省
ならびに県へ行って折衝した経過
を申し上げて、ことしの計画をき
めていただいたき、それぞれの審議を
願いたい。

(小川副議長) 私どもが議席を
同じうして、ここに四年目の新春
を迎えることができたのはご同慶

の至りである。本年が任期の最終
の年になっているので、大いに自
重し、協力して運営をスムーズに
やっていたきたいと念願してい
る。とくに町長の施政の三大目標
については、大いに関心をもち
よりよき町政にまいしんいたした
い。

食べ物と 食ベ物と

●昨年の十一月十日から四十日
間、県下一せいに言われたネズ
ミ退治は、みなさんのご協力で予
期以上の成果を収めることができ
ました。県下では七百万匹のネズ
ミが退治され、約十億円の損害を
救った計算になります。ただし、
クジの当たりは思うようにゆかず
この町では四等二本、五等十一本
というさびしさでした。個人で県
一位になった五十嵐義雄さん(西
濱、中之口村)という御仁は、一
千二百八十四もったというところ

☆ 幼い協力

(春の火災予防運動)
二月二十五日・三月十三日



です。とてもかないませぬね。
この町でも二千六百七十一匹の
死(鼠)が集まり、二万匹のネ
ズミが減ったと推計されています
次に、町内別の死ノ発見数を上
位から列記してみましよう。

- ①新町 二〇八
- ②赤谷 一七五
- ③室島 一〇四
- ④中仙田 九四
- ⑤沖立 九一
- ⑥上野 七八
- ⑦寺尾 六八
- ⑧岩瀬 五七
- ⑨藤沢 五四
- ⑩篠谷 五二

●東京都内や新潟市などで、い
まインフルエンザが流行していま
す。ことしはB型が多いとか、妊
娠中の人や小児、学童には十分注
意してください。

病状としては、三十八度から九
度の熱が二日くらい続き、三、四
日たつと頭痛、全身けん怠、腰痛
悪寒、セキ、鼻水などが増加しま
す。予防ワクチンもあるのですが
品不足で入手が困難な現状です。

次のことに注意してください。
①からだの抵抗力を増すようにビ
タミンBをとり、過労をさける。
②外出から帰ったらウガイする。
③頭痛、発熱などの異常があると
きは、すぐに医師の診断を受けて
静養する。

④患者はなるべく仕事を休み、外
出をさける。
⑤食品衛生協会川西分会(保坂
長雄会長)が発足しました。食品
業者(料理・飲食店・納豆・菓子
豆腐・酒製造・鮮魚・肉・牛乳屋
など)が集まり、新鮮で衛生的な
食品をお届けしようというのが目
的ですが、このため研究会や講習会
をひらき、悪い点をお互いに注意
し合い、新しい技術を習得してい
くことになっていきます。(押木)

保育園児の 受け付けはじまる

昭和三十六年度の、千手保育園
入所児童の受け付けをきょう(十
日)から行ないます。入所を希望
される世帯は印かんを持参し、本
月中に役場までおいでください。
入所申し込みのあった方について
は、世帯状況など措置の要否を検
討の上、三月下旬に本人あて通知
する予定です。(社会係)

白鳥を お見かけの方へ

昨年の例によりますと、ことし
もまた、白鳥の飛来が予想される
時期になりました。お見かけの方
は、発見場所と羽数を知らせてく
ださい。(農林係)

町議会報告 ②

収入役に根津氏を選任

副収入役も同時に設置

昨年末からの懸案であった専任収入役... 二月一日の臨時議会において町長の提案した根津正三氏(税務係長)を任命する案に対し、全会一致で同意し、ここに最終的解決を見た。

給与条例を改正

以上のほか、この議会において議決されたものは、町議会議員の期末手当支給条例の一部改正並びに、川西町一般職の職員給与に関する条例の一部を改正する条例の二件である。



根津収入役



増田副収入役

町政の円滑化に努力

川西町収入役 根津正三

はからずも、このたび川西町収入役を拜命いたしました。もとより浅学非才の身でありまして、分に過ぎた重責を果たすためには、つねに勉強と努力をおこたっては、格別のご指導をいただきましたこと、こゝにあいさつ

根津氏らの横顔

町の台所を託すには最適任者であると認められ、新収入役の職についた根津正三氏と、副収入役の増田享氏。新税務係長となつた田口一朗氏の横顔にふれてみたい。

放犬は厳禁

納係長として連日大金を数えているベテラン。根津収入役のよき妻房役としてふさわしい人であらう趣味はマージャン、剣道は初段。

最近ひんびんと、犬が人をかか(咬)んで問題をおこしています。この町でも放犬している人が多く、郵便屋さんや子どもたちから、「困っている」とたびたび投書も届いています。ご承知のように、犬は狂犬予防法により、生後三ヶ月になると年一回の登録と、年二回の予防注射をしなければならぬことになっております。また、新潟県飼犬取締条例により、所有者は人に危害を加えないように必ずけい留しておかなければなりません。くれぐれも注意してください。

固定資産税の課税台帳を縦覧

座ぶとんを米寿の祝いに

三月一日から二十日間、固定資産課税台帳を縦覧に供します。昭和三十六年度は、固定資産の評価基準年度であります。約五千むねの家屋と八万八千筆におよぶ土地が、今までの調査にもとづいて評価替えされることになりました。現在計画的に事務処理を急いでおりますが、この結果、三月一日から二十日までの間、役場と各支所にて課税台帳を縦覧に供します。ぜひごらんになってください。もし異議がありましたら、三月末日までに固定資産評価審査委員会へ審査の請求をすることになります。その手続きなどは、縦覧の場所で説明申上げます。(税務係)

町社会福祉協議会(中村杜吉会長)では、一月一日現在で数え年八十八才になった次の人たちに、米寿を祝つて座ぶとんを一枚ずつ贈った。ふくよかな花模様の花のついたりつばなもので、「長生きはしたたりつばな」と、涙を流して喜んでいました。と、涙を流して喜んでいました。

- 関口ロク(中央町) ●佐藤市蔵(田中) ●小野塚サツ(四郎兼その後に死亡) ●丸山ツヤ(新町) ●小海磯吉(小根岸) ●高橋モト(高島) ●登坂留三郎(岩瀬) ●金子フネ(元町)

ことしの移民第一号 藤巻さん一家ブラジルへ 一月十三日に横浜出港

「塩辛の牛乳屋さん」で親しまれていた藤巻さん一家が、岩瀬の金子君につづいてブラジルへ移住した。主人の秀里さん(三十四才)妻トキさん(三〇才)長女成子ちゃん(六才)二女康子ちゃん(五才)の四人は、父母の住む雪深い郷里をあとに、正月早々の五日夕刻、ふぶきの中を横浜の移住あせん所へ向けて出発した。ここで一週間の移住教育を受けたのち、さる一月十三日に、横浜港からオランダ船の「チヤレンカ号」でブラジルへの壮途に着いたのである。大西洋まわりで約二カ月の船旅を終えると、南米ではサンパウロのコーヒー園で働く。あすへの自営をめざして、現地研修を行ないながらの希望に満ちた生活が待っているという。

(官 昭一)

一昨年雄飛した金子国栄君にひきつづき、この町からふたたび渡伯することになった藤巻さん一家を、渡航準備にあわただしい一日夫人の実家である四郎兼の渡辺理平さん宅にたずねることができた。渡伯のいきさつや今後の農業問題などについて、ブラジルの話に花を咲かせながら伺ったわけであるが、そのときの話を中心にふれてみたと思う。

熱意に
ほだされた両親

秀里さんは、父藤松さん(六十才)母スガさん(五十六才)の長男として育ち、現在の牛乳屋は父の代から四十年も続いている。戦時中高田農学校を卒業して家業にはげんできたが、せまい国土を山と雪にかこまれた封建的な社会から脱皮し、いつかは希望と理想に満ちた自由な天地で、のびのびとした生活をいとなんでみたいと望んでいた。しかし、長男なのだから家業を継いでほしい、という両親の強い要望もあり、七年前に夫人のトキさんをむかえ、これまで家業に専心



(写真は渡伯した藤巻さん一家)

して来た。けれどこの間、知人の紹介で農林省や県庁にも数回足を運び、渡伯の決意は深まるばかりとなった。はじめは反対していた両親や親類の人たちも、社会情勢の変化や、秀里さんの情熱と深い研究態度に動かされていった。そして、心からその壮途を祝福し郷土の名誉と、国際人としてはすかしくない活躍をするようにとの言葉をまじえたことばに変わったのである。

移住者の
続出を確信

父母のあたたかい理解、親類のそして多くの人びとのほげまじに送られて行った藤巻さん一家を、広大な国ブラジル、あすの国ブラジルの大地はどうむかえてくれるだろうか。明るい希望のかけに、

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

滋野	和子	米作	二女	野口
野沢美智子	明	長女	野口	
山田	真一	五作	長男	仁田
藤巻	光男	敏志	二男	寺ヶ崎
若山万寿夫	博	二男	新町新田	
若山	明彦	昭治	長男	新町新田
渡貫	勝美	和栄	長男	新町新田
清水	千里	正三	長女	上野
野田	雪雄	昭男	二男	高野原
平野	治人	幸治	長男	四郎兼
田中	きよ	修	長女	小白倉
高橋	博一	政敏	長男	高倉
高橋	優子	保	長女	高倉
木村	久善	作治	長男	室島
桐生	幸恵	四方吉二女	大白倉	

いくたのいばらの道が待っていることは十分に承知していた。藤巻さん一家のこれまでの実績からすれば、必ず新天地を開拓してくれるものと信じている。

乳牛の世話から田畑の耕作、何でもベテランの秀里さんは、ことば少なく次のように語っていた。「他産業では経営規模の拡大や生産性の向上を図っているのに、ひとりの農業のみが旧態依然とした経営方式を行なっているのでは、他産業との隔差がますます大きくなる。お互いがせまい経営の中にあっては進歩も向上も望めない。農業の近代化・共同化がさげばれている現在、いつまでも旧習に固執することなく、経営の改善に積極的に取り組まなければ、近代社会の化石となるおそれがあると考える。わたしは決して途ほろもな

昇天—御めい福を祈る

桐生	和博	茂	長男	大白倉
川崎由紀子	良一	二女	越ヶ沢	
市川	実	信二	二男	霧谷
登坂	一夫	信雄	長男	岩瀬
山口	甚二	仁田	七四	
藤原	長吉	仁田	九〇	
水落	栄吉	仁田	六〇	
野沢	寿江	野口	六三	
丸山	スミ	根深	六八	
古沢	英保	上野	五七	
小野塚サク	四郎兼	野田	八六	
高橋	キヨ	寺尾	六六	
清水	サト	上町	五一	
佐藤	クニ	小脇	六五	
南雲	ココ	中仙田	五七	
小林	貴	中仙田	〇	
登坂増太郎	赤谷	七二		

だかさ—御円満に

高橋	栄	高倉	四九	
白杵	通雄	仁田		
水口とみえ	佐渡から			
田口	利雄	木落		
問谷	照子	大阪市から		
田村	俊一	上野		
北村	弓子	長野県から		
松本	政市	中屋敷		
丸山	君子	真人町から		
横山	國六	中島町		
桑原	洋子	栃尾市から		
柄沢	五市	沖立		
浅野	富子	見附市から		
片桐	尚一	大白倉		
新井	長	上野から		
新井	祥子	室島		
新井	増田	高崎市から		
新井	好男			

ふるさと

突然変異が雪線をひくくしたのだろうか。雪おろしも五、六回を数えている家はさらさらである。無雪道路の夢はアツというまに消え、雪は自然の摂理が人為を超越していることを教えてあまりある。▲近い記録では三十二年が相当大雪になっていたが、この年の積雪図を書くとき、昨年暮れから本年二月にかけてのものとはほぼ似たような図ができた。一片の図をたよりにことしの積雪量を予想する考えはさらになくとも、ちなみにこの三十二年の例をとれば、二月は二メートルを越す線を上下しながら、三月にはいった最高三メートル強を記録したようだ。▲同じ積雪図の比較で気がつくのは、二月のカーブが一昔前と現在のいぢじる相違のあることだろう。たとえば過去に大雪といわれた昭和二十年だが、二月二十六日に最高、四・四五メートルを記録して、全体的にはこの月を頂点とした三角形をえがいている。それが最近では二月を上底とした台形の傾向を見せた。▲現在の積雪量は一月末に約二メートル、二月にはいつて三〇センチは増している。二十年の一月末では三・八メートル、同様に大雪だった昭和九年の同時期はというと三メートルの記録があつて差違もあきらかなのに、けだしことしは大雪だとする点、気持ちも周囲の状況もかわっている。▲雪の特性は熱の伝導率が少なく、保温作用が多いという性質は保衛衛生、農業方面への関連が深く、いたすらに雪意をおしはかつてもられない。(乙)

赤岩校区に婦人学級

テレビも使つて話し合い

もりあがる学習の意欲

赤谷、岩瀬、大倉婦人会の内部に、「何とかして教養を身につけたい」という意欲が見えはじめたのは二年ほど前のこと、それが去年の秋あたりから急激にたかまり、町に働きかけてついに婦人学級を開設した。ここまでこぎつけさせたものは何だったろうか……。

大きかった
婦人会の力

この地域は学習熱の旺盛なところ、赤岩小学校(篠村久司校長)には数年前から母親学級が開設されていたし、また、三部落の婦人会でも毎月一回、村の公民館に集まって共同学習を続けてきたほどの熱心さだった。社会教育のための一般教養をはじめ、子どものしつけや育てかた、生活の改善などについて熱心に話をきき、講師をかこんで話し合う夜もいくたびとなく続いた。これらの活動が実生



(勉強するおかあさんたち)

活の面に生かされて、たかきご会(よいおはあさん)になって長生きしようというしゅうとさんの集まり)や読書会、生活改善をめざすヘチマ会などのりっぱなグループを生んでいく。こうした努力が、反面で婦人学級開設のきっかけになったことはいままでもない。婦人会員の間に、「婦人学級をほしい」という声が出だした。こうして昨年十二月の末には、赤谷婦人会(登坂静枝会長)で四十三名、岩瀬婦人会(中条ナカ会長)で四十三名、大倉婦人会(中条三枝会長)で二十名の希望者がまとめられ、三部落の会長さんが代表して町の教育委員会に婦人学級の開設を申請したのである。中村町長や杉本教育長もこの熱意にほだされ、とりあえず、予算の範囲内で開設してこの学級を育成していくことになった。町が呼びかけてきたのではなく、婦人たちのもりあがりて開設された学級はこれが最初である。(教育委員会では、これをきっかけに町内の婦人会から相当数の開設希望があるものと見ており、これに見合う新年度予算を組みたい意向をもっている。)



学級運営は
自分たちで

赤岩婦人学級はこうして開設され、さる一月十一日、第一回の集会をひらいて今後の運営を協議した。この結果、婦人会の役員とは別に、各部落から三名の運営委員と書記一名を選出し、この人たちが学級生の声をきいて課題をとりあげている。本年度は毎月二回、赤岩校に集まって家庭教育を中心として勉強していくことや、この集会とは別なかたちで、部落ごとのテーマをとりあげて学習していくことをきめた。また、毎週水曜日はテレビのある学級生の家へ集まり、NHKのテレビ婦人学級(うつりゆく農村)を聴視して話し合うコースも生まれている。入級希望者もしたいに増加し、現在の在籍学級生は百二十三名になった。四月から年間の学習計画をたてて運営することになっているが、これまでの母親学級や婦人会活動の一部もおりこみ、場合によってはコース別(一般教養、和洋裁、いけばな、生活改善など)のグルー

今後の
活動に期待

あるアネサに、「あなたはどうして参加したのですか？」と聞いて、「時代おくれの人間になりたくないからです。家の人も、みんなが心よく許してくれました。でも主人が申すには、いままででさえ口うるさいお前が、これ以上りこうになったら手をつけられない、オヤジ教育もほどほどに、ですって……」と意味ありげに笑って

慰問・寄金・除雪奉仕など
善行あいつぐ二月の町

もう春の近い川西に、このところ美しい話があいついできかけたふるさとを思い、町を愛すればこそ善行が、ふぶきに明け暮れたわたしたちの心に明るい光を投げかけてくれたのである。そのおもな話題を紹介すると……

婦人学級ガンバレ

婦人学級の開設を契機に、部落の主婦たちがおどろくほどの活動をはじめた。グループごとに話し合い、宿題らしきものにとりくむ熱意に頭がさがる。ここまでこぎつけさせてくれたのは、町当局の指導と、婦人会役員の努力があったからだ。感謝している。このカゲには、若い嫁さんをばげまし、いづもえがおで送り出してくれる、

町の声

その一 千手の中央青年会(小林松市会長ほか四十五名)がさる日千手保育園のよい子たちを慰問した。心づくしのお菓子を口にしながら、おにいちちゃんおねえちゃんの遊戯や人形劇を熱心に見つめ、顔をほころばせてかわい拍手をとおったという。会員のひとりである小林竹野(町役場勤務)さんは、「あんなに喜んでくれたとは思っていませんでした。これからも、人のためになることはどんどんやっけていきたいと思います。合っています」と語っている。

いた。運営委員のひとりである岩瀬の中条ナカさんは、「よりよい環境を生み出すには、まず何よりも明るい家庭をつくらなければなりません。そのためには主婦の教養をたかめることが先決であり、それを植えてくれるのが婦人学級だということを、みなさんがよく理解してくれています」と語っている。

あれから一カ月、運営はまだ軌道に乗ったばかりだ。今後みんなの手でよりよい活動が展開されていくだろう。それを期待している。

その二

ある日のこと、保健婦の岩田トクさんあてに一通の封書が届いた。手紙のぬしは、静岡に出かせぎ中の屋名進一(霜条)さんである。「川西は大雪のこと、保健指導もたいへんでしょね。雪にとざされ、病室にとじ

その三

千手地区の青年学級生(数藤孝一君ほか五名)が、人の知らぬ間に役場と公民館の除雪をしてくれた。日ごろ、青年学級のために町から予算をもらい、何かと指導してもらっているというので、せめてわたしたちにしてやることなら除雪を買って出たもの。この無料奉仕は、もう数回におよんでいる。

その四

へき地へ友愛のプレゼントと題して、本紙の第二十二号で紹介した清水恵子(栗原)さんの善行は、その後もほとんど毎月のように続けられている。毛布やオーバー、子どものセーターやジャンパーなど、まごころのこもったこれらの品が、そのつど不幸な家庭に配られているわけだ。

…ブラジル通信… (3) ことばが何よりの財産

在レジストロ市 金子国栄

在ブラジルの金子国栄(岩瀬)君から、編集部あてに元氣なたよりをもらった。「せまい国土にあえぐよりもいっそのこと」と、ついこんな氣を起させるような文面である。藤巻さん一家も渡伯した。このあとだが、いつまた新天地に雄飛することであろうか。

南国の空に 入道雲が

川西町のみなさま、お元氣でございませうか。さぞかしよい年をむかえられたことと存じます。ことしはなかなかの大雪だそうです。たいへんなことでしょう。ブラジルはいま夏のさかり、でも、ぼくの住むレジストロ市は海岸のすぐそばで、そんなに暑くは感じません。きれいにすんだ南国の空にほわわりと入道雲がかうかび、くだもの屋の店さきにはバナナやスイカが山と積まれています。正月には汗かきながらモチを食



べました。腹いっぱいになったところで自動車をふっ飛ばし、すぐ近くの河口まで水泳に行ってきた。まっすぐに伸びたふといヤシの木の浜で、色どりのビーチの人が海水浴を楽しむ風景、日本ではちょっと想像できないかもしれません。イグレーシャ(教会)もにぎやかでした。

希望に輝く モツソの顔

ぼくも満二十才になりました。日本にいればもう成人式、一人前の人間として祝福され、社会人としての責任を自覚して生きることを誓っていたでしょう。ブラジルにいても、この決意には変わりありません。愛情・秩序・進歩の三つを信条として、固くつくりはげむモツソ(青年)の顔も希望に輝いています。

ぼくはつねに健康を保ち、どこへ行っても通用するだけの人間になりたいと思っています。いまのぼくにいちばんたいせつなのは、金をためることや、立身成功を夢見ることではありません。ブラジルの環境になじみ、一日も早くこ

正しいポルトガル語を基礎から学ぶことが必要なのです。学校へ通っているおかげでいちおうの会話はできるようになりましたが、まだまだ勉強はこれからです。ブラジルに住んでいる各国人のことをよく知り、その上で全国に通用することばを覚えることが、ほかの何よりもたいせつな財産だということを感じています。渡伯して三年以内のことばを覚えなかつたらもうダメ、いいかげんな日本人のブラジル語だけでは、一生を人の下積みで暮らさなければならぬといわれています。

天然資源の 無尽蔵な国

地球儀のある方はちょっと出して見てください。日本のちょうど反対側、南米大陸の大半を占めるブラジルは、ポルトガル人によっていまから四百九十年前に発見されました。面積は日本の約二十三倍、アマゾン河には日本がポトンとほいとささいわれます。それなのに人口はわずか六千万人、この広い国土には鉄石や砂金をはじめ、石油などの天然資源が無尽蔵です。北半球とちがって気候もよく、農耕に適していることはいらうまでもありません。

日本では農業人口を減らすことを考えているそうですね。思い切ったブラジルにいらっしゃいませんか。問題は日本を去るという決意と肉親の理解、ただそれだけのよな気がいたします。ブラジル政府は「産めよふせよ」の国策をとり、また、海外からの移住者を歓迎しています。とくに、

日本人はブラジル農業の功労者として尊敬され、日本からの呼びよせに力を入れ、入国者の数も年々増加しています。が、ただ表面の良さだけにあこがれてとんでもない野心をいだき、「行けば何とかいう安易な気持ちでやって来た人たちの中には、とかく落伍者が多いようです。永住を決定してやってくるからには、やはりそれ相応の決意が必要なのです。

国民年金の 届け出を早く

拠出制の国民年金が、きたる四月一日から全面的に実施されることになりました。みなさんは被保険者の届け出を終わらせたでしょうか。四月までに、みなさんに国民年金手帳が交付されなければなりません。届け出をしてから、手帳が交付されるまでには相当の期間を必要といたします。まだ未届けの方は、一日も早く届け出を済ませてください。これは法律で定められた、国民の義務であります。保険料納入が困難の方には免除の方法があります。希望者は係に申し出てください。(社会係)

町の掲示板

押木助役も町長室へ
・根津収入役の就任にもない、職務兼掌をとかれた押木助役が町長室にはいった。今後、助役の職に専心できることになったわけ。
町長室にはこれまでどおり、押木秀治氏(消防主任)が同室して秘書的な役割りを果たしてくれる。

嘱託員さま

- 塩辛・藤巻清助 ●上野・根津浩 ●新町新田・内山正平 ●元町・押木喜平 ●下平新田・沢口由蔵 ●田代・中島 謙 ●星名新田・渡辺正吉 ●桐山・桑原真夫 ●藤沢・小林雄雄 ●田戸・押木二吉 ●越ヶ沢・小川辰治 ●赤谷・小川文治郎 ●岩瀬・金子権三郎

成人講座の日程

- 中仙田 △十日(登坂校長)
- △二十日(山家所長・高橋普及員)
- △三月七日(普及所) ●岩瀬 △十一日(登坂校長) △二十一日(山家所長・高橋普及員)
- △三月八日(普及所) ●下原・夜(佐藤主事) △三月三十日(杵淵校長) ●野口 △十三日夜(佐谷氏) △二十三日(佐藤主事)
- △三月四日(杵淵校長) ●元町 △十四日(佐谷氏) △二十四日(佐藤主事) △三月七日(保坂主事) ●中央町 △十四日夜(金子) △二十三日夜(保坂主事) △三月一日夜(太田氏)
- 一分館 △十五日(保坂主事) △二十四日(金子) △三月二日(田中氏) 一夜は午後七時、昼間は午後一時に開会。

かわにし 俳壇

金山 柏樹 選
学校町 高崎 正風
○やわらかき雪の起伏に日射しくる
鳥の輪の中の冬嶺輝きぬ
愛知県 金子 鉄平
どの道もみんな花菜と麦の村
ふるさとに書く文長し寒灯下
岩瀬 登坂 桂子
星一つ輝いておる寒さかな
小白倉 江口 凡石
積み上げし雪そのままに寒の明
病みがちの母の早寝や寒の内
下原 丸山 仁子
室島 宮 川
寺の軒長き氷柱の支えたる

●政党や宗教に関係した投書がめだつて多くなりました。せつかくの意見なのですが、特定の宗教や宗派などを支援したり、あるいは政党を支持したりするような記事は掲載いたしかねます。

編集後記

●成人講座を開設地区のみなさま、そのつごう出席くださってありがとうございます。あなたの人がらに、いちじるしい変化がみられたのではないのでしょうか。

●機構改革がもうすぐとか、社教職員増員と予算の増額を念願しています。ご支援ください。

●うす高く積まれた雪、ふぶきにあげられた一月でした。この思いもあつたこと、しばらくがまんしましょう。